

「住んでよかった」と思えるまちづくりで もっと輝く羽咋市に



羽咋市長 岸 博一氏

1954年12月1日生まれ
1973年 羽咋高等学校卒業
1977年 明治大学法学部卒業、羽咋市職員に
2008年 企画財政課長
2011年 教育委員会教育次長

2013年 羽咋郡市広域圏事務組合事務局長
2016年 羽咋郡市建設資材協同組合事務局長
2017年 羽咋市議会議員
2020年 羽咋市長に就任

自然豊かな能登半島の入り口にあり、北陸地方の交通の要衝として歴史を刻んできた石川県羽咋市。年初の地震では、特定の地域が液状化などの被害をこうむりました。就任から4年を迎えた岸博一市長に、震災対応や人口減少時代のまちづくりについて伺います。

他県の応援に支えられながら被災者に寄り添うサポートを

能登半島地震の発災時はちょうど妙成寺で貫首さんに挨拶中。すぐ市役所へ戻り、災害本部を立ち上げました。高台にある庁舎には津波を恐れた住民が千人以上も駆け込んできて…。庁舎自体は避難所ではないのですが、全館を解放し、備蓄の毛布などを使ってご滞在いただきました。

被災状況は奥能登ほどではありませんが、一部地区の液状化被害が深刻です。まず避難所を17カ所開設して対応。また、新築直後の民間アパートがたまたま数十戸ほど空いていたため、みなし仮設住宅として被災者に提供するとともに、集合住宅の空室の確保や仮設住宅の建

設を進めました。

前代未聞の災害ゆえに職員の苦勞も並大抵ではありませんでしたが、ノウハウのある他県スタッフの協力もあり徐々に体制が整いました。長野県の応援が1月5日から入り、交流のあった宮城県栗原市からも支援が。調査、補助金、罹災証明…、延べ約2500人にお世話になりました。

下水道の損壊などが甚大で、インフラの本格復旧には5年以上を費やそうですが、国の助成もありますし、問題はむしろ個人の生活の復興です。ワンストップ型の窓口を設け、煩雑な申請手続きの円滑化などを図ってはいれるもの、高齢者の多い地域でもあり、「今さら家を建てるのは無理」「家財の処理をどうしたらいいか」などと悩みは千差万別。個々の状況に即した支援に努めているところです。

玄関口の開発で賑わいを生み子育て支援の充実化も着々と

千里浜なぎさドライブウェイや妙成寺を筆頭に、自然豊かで歴史的遺産も豊富なことが市の自慢。重要文化財の数は、県内では金沢市に次いで多いんですよ。こうした魅力の発信を図りながら、少子高齢社会に対応したまちづくりを進めています。

たとえば、市の玄関口である羽咋駅や千里浜インター周辺の開発に注力し、7月には駅西の商業施設跡地に交流拠点「LAKUNAはくい」をオープンさせました。図書カフェなどを備えた空間は老若を問わず人気で賑わいを生んでいますし、千里浜インターそばに造成した「千里浜ヒルズ」は、住宅地が完売と好評。有名ホテルの開業も待たれています。

また、子育て支援策にも注目してきたですね。この4月から小中学校の給食費や保育料、18歳までの医療費の完全無償化を実現しました。



新交流拠点「LAKUNAはくい」は7月に開業したばかり

教育レベルの高い石川県の中でも羽咋市の学力はトップクラスで、子育てに最高のまちだと自負しています。人口減をむやみに悪とするのではなく、目指すのは、住んでいるみんなが安心安全で、幸せを感じて暮らせるまち。それには震災復興を優先させねばなりませんし、何をするにも財源の確保が必須です。市民の多様な声に耳を傾け、国とのパイプを太くして要望を確実に届けながら、輝く羽咋の実現に努めていきたいと思えます。